

Japan
Food
Research
Laboratories

第 12020930001-01 号 page 1/3
2012年(平成24年)04月04日

試験報告書

依頼者 株式会社 リナック八千代

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 ケイ酸ナトリウム系リチウム配合「防水Osmo」浸出試験用
塗布供試体

表 題 浸出試験

2012年(平成24年)03月06日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

浸出試験

1 依頼者

株式会社 リナック八千代

2 検体

ケイ酸ナトリウム系リチウム配合「防水0smo」浸出試験用 塗布供試体

3 試験概要

検体についてJWWA Z 108(2004)「水道用資機材-浸出試験方法」により、カドミウム及びその化合物等の浸出試験を行った。

4 試験結果

結果を表-1に示した。

表-1 浸出試験結果

項目	結果	定量下限
カドミウム及びその化合物	検出せず	0.0001 mg/L
水銀及びその化合物	検出せず	0.00005 mg/L
セレン及びその化合物	検出せず	0.001 mg/L
鉛及びその化合物	検出せず	0.001 mg/L
ヒ素及びその化合物	検出せず	0.001 mg/L
六価クロム化合物	検出せず	0.005 mg/L
フッ素及びその化合物	検出せず	0.05 mg/L
ホウ素及びその化合物	検出せず	0.1 mg/L
アルミニウム及びその化合物	検出せず	0.02 mg/L
鉄及びその化合物	検出せず	0.03 mg/L
亜鉛及びその化合物	検出せず	0.01 mg/L
銅及びその化合物	検出せず	0.01 mg/L
ナトリウム及びその化合物	検出せず	0.1 mg/L
マンガン及びその化合物	検出せず	0.005 mg/L
蒸発残留物	10 mg/L以下	***
味	異常なし	***
臭気	異常なし	***
色度	0.5度以下	***
濁度	0.05度以下	***

5 試験方法

1) 浸出操作

検体を水道水(東京都多摩市)で1時間流水洗浄した後、精製水で3回洗浄した。次に、浸出用液(pH7.0±0.1, 硬度45±5 mg/L, アルカリ度35±5 mg/L, 残留塩素1.0~1.2 mg/L)で3回洗浄した。洗浄後、検体を浸出用液に浸漬し、約23℃で72時間静置して得られた液を浸出液とした。また、対照として依頼者提供のコンクリート片を浸出用液に浸漬し、同条件で静置し、空試験液とした。

なお、検体の接触面積比は50 cm²/Lとし、コンディショニング操作は省略した。

2) 測定方法

測定方法を表-2に示した。

表-2 測定方法

項目	測定方法
カドミウム及びその化合物	誘導結合プラズマ質量分析法
水銀及びその化合物	還元気化-原子吸光光度法
セレン及びその化合物	誘導結合プラズマ質量分析法
鉛及びその化合物	誘導結合プラズマ質量分析法
ヒ素及びその化合物	誘導結合プラズマ質量分析法
六価クロム化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
フッ素及びその化合物	イオンクロマトグラフ法
ホウ素及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
アルミニウム及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
鉄及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
亜鉛及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
銅及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
ナトリウム及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
マンガン及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
蒸発残留物	重量法
味	官能法
臭気	官能法
色度	透過光測定法
濁度	積分球式光電光度法

以上

分析試験成績書

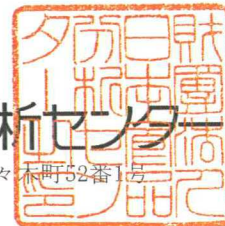
依頼者 株式会社 リナック八千代

検体名 ケイ酸ナトリウム系リチウム配合
「防水Osmo」作業時排出液

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



2012年(平成24年)03月06日 当センターに提出された上記検体について分析試験した結果は次のとおりです。

分析試験結果

分析試験項目	結果	定量下限	注	方法
鉛	検出せず	0.01 mg/L		原子吸光光度法
カドミウム	検出せず	0.005 mg/L		原子吸光光度法
スズ	検出せず	0.1 mg/L		ICP発光分析法

以上

試験報告書

依頼者 株式会社 リナック八千代

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 防水0smo

表 題 浸出試験

2016 年(平成 28 年)08 月 08 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

浸出試験

1 依頼者

株式会社 リナック八千代

2 検体

防水0smo

3 試験概要

検体を依頼者指定の条件でモルタル片に塗布し乾燥させ供試片を作製し、供試片について JWWA Z 108 : 2012「水道用資機材-浸出試験方法」により、亜硝酸態窒素の浸出試験を行った。

4 試験結果

結果を表-1に示した。

表-1 浸出試験結果

項目	結果	定量下限
亜硝酸態窒素	検出せず	0.004 mg/L

5 試験方法

1) 供試片の作製

検体をモルタル片に塗布した後、約23℃で24時間乾燥し、供試片とした。

なお、検体を塗布しないモルタル片を空試験用供試片とし、同条件で静置した。

2) 浸出操作

供試片を水道水(東京都多摩市)で1時間流水洗浄した後、精製水で3回洗浄した。次に、浸出用液(pH7.0±0.1, 硬度45±5 mg/L, アルカリ度35±5 mg/L, 残留塩素1.0~1.2 mg/L)に浸漬し、約23℃で24時間静置後に浸漬した液を交換する操作を2回繰り返しコンディショニング操作を行った。コンディショニング終了後、供試片を浸出用液に浸漬し、約23℃で72時間静置して得られた液を浸出液とした。また、浸出用液に空試験用供試片を浸漬し同様の操作を行い、得られた液を空試験液とした。

なお、依頼者指定により、供試片の接触面積比は50 cm²/Lとした。

3) 測定方法

測定方法を表-2に示した。

表-2 測定方法

項目	測定方法
亜硝酸態窒素	イオンクロマトグラフ法

以 上

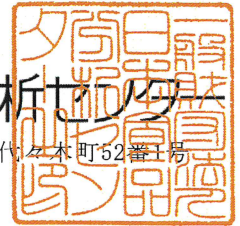
試験報告書

依頼者 株式会社 リナック八千代

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 Osmo-xp

表題 浸出試験

2022 年 03 月 11 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

浸出試験

1 依頼者

株式会社 リナック八千代

2 検体

Osmo-xp

3 試験概要

検体を依頼者指定の条件でモルタル片に塗布し乾燥させ供試片を作製し、供試片について JWWA Z 108 : 2016「水道用資機材の浸出試験方法」により、六価クロム化合物の浸出試験を行った。

4 試験結果

結果を表-1に示した。

表-1 浸出試験結果

項目	結果	定量下限
六価クロム化合物	検出せず	0.002 mg/L

5 試験方法

1) 供試片の作製

検体をモルタル片に塗布した後、約23 °Cで24時間乾燥し、供試片とした。

なお、検体を塗布しないモルタル片を空試験用供試片とし、同条件で静置した。

2) 浸出操作

供試片を水道水(東京都多摩市)で1時間流水洗浄した後、精製水で3回洗浄した。次に、浸出用液(pH7.0±0.1, 硬度45±5 mg/L, アルカリ度35±5 mg/L, 残留塩素1.0~1.2 mg/L)で3回洗浄した。洗浄後、供試片を浸出用液に浸漬し、約23 °Cで72時間静置して得られた液を浸出液とした。また、浸出用液に空試験用供試片を浸漬し同様の操作を行い、得られた液を空試験液とした。

なお、依頼者指定により、供試片の接触面積比は50 cm²/Lとし、コンディショニング操作は省略した。

3) 測定方法

測定方法を表-2に示した。

表-2 測定方法

項目	測定方法
六価クロム化合物	誘導結合プラズマ質量分析法

以 上